



TITLE:

先輩からのメッセージ

AUTHOR(S):

柴田, 茂紀; 山本, 英司; 高橋, 信弘; 岡崎, 将也; 藤中, 康生; 小椋, 文智; 熊野, 聖史

CITATION:

柴田, 茂紀 ...[et al]. 先輩からのメッセージ. 岩本ゼミナール機関誌 2003, 8: 116-121

ISSUE DATE:

2003-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56924>

RIGHT:

先輩からのメッセージ

ティーチングアシスタント 柴田茂紀

機関誌発行に寄せて

9期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。春合宿から今日までの3年間、みんなと同じ時間と空間を共有できてとても楽しかったし、勉強になりました。あの頃は初々しかった面々が、卒業を間近にすっかり大人の顔になり、頼もしく思います。

ゼミ長の沓脱くん、リーダーシップはもちろんのこと、徹底的な資料調査と統計処理が印象的でした。今後も、その見極めのよさを磨いてください。

小畑くん、春合宿のドライブとディベートの発言が印象的でした。どちらもバランス感覚は見事だと思いました。

嵯峨さん、関学ディベートの想定問答集づくりと当日の切り返しは素晴らしかったです。柔軟性のある受け答えはいい武器になると思います。

杉さん、インゼミ担当者ならではの苦勞を乗り越えて、最終弁論はとても鮮やかなものでした。自分の疑問に徹底的に取り組む姿に圧倒されました。

南井くん、勉強会での的確で冷静なコメントに何度も助けられました。日頃の落ち着いた物腰を見習います。

Mr. ロージーホーン、ゼミの活性化のために、ひとりひとりに質問をしたり議論を展開する姿が印象的でした。他のTAのみなさんと共に、そのスタンスを引き継ぎます。

荒戸くん、後輩の勉強会に参加して、丁寧にアドバイスしていた姿が思い出されます。今後もHPの管理を含め、よろしくお願いします。

個性豊かなみなさんとの出会いは、自分にとって大きな財産です。毎年の言葉ですが、みなさんそれぞれの「しあわせ」を京都の地から祈願しております。次に（青竹会で？）お会いできる日を楽しみにしています。

元ティーチングアシスタント 山本英司（龍谷大学非常勤講師）

ゼミ生への言葉

今しか出来ない、今だから出来る勉強を頑張ってください。大学を出てからもやり直しが出来なくはありませんが、やはり若いうちにやっておけばよかったと後悔することしきりです。

中央官僚の幹部を任命制に

昨今、官僚批判が盛んである。小泉政権の構造改革は、抵抗勢力である自民党国会議員によって骨抜きになってしまったが、最大の抵抗勢力は官僚であるという主張もある。

考えてみれば、現在日本が抱えている状況に関して、中央官僚の責任は大きい。例えば小泉政権は、その政権発足直後、保育園への待ち児童数をゼロにする目標を掲げ、保育園の数を増やした。この政策は、それほど大きな予算を必要としないので、小泉政権が発足する前でも、やる気があれば国会議員の強い抵抗にあわず実現したはずである。しかし、旧厚生省にはそれをやる気が欠如していたのではないか。そもそも、日本経済の抱えている大きな問題の一つは、少子化である。今後、労働力人口が減り老人が増えるなかで、諸政策に必要な税収確保は容易でない。年金の負担も重い。さらに、高い法人税率が、企業活動の活性化を阻害し、加えて海外からの直接投資を減らす効果がある。少子化の問題は、30年前から言われていたにもかかわらず、旧厚生省は抜本的対策を採らなかった。

また、国土交通省は、日本の公共事業について、価格が欧米より4割高いという批判を浴びながら、しかもほぼすべてで談合が行われているのに、公共事業の価格低下のための抜本的政策をとってこなかった。それどころか、自民党道路族と結託して道路公団の民営化案を骨抜きにした。これでは「鉄の三角形」そのものではないか。国と地方の債務残高がGDPの160%に達する今日、国債暴落による日本経済への打撃のリスクを鑑みず、省益を追及するその姿勢は、愚かといしか言いようがない。

よって、厚生労働省と国土交通省へは、その組織を解体するくらいの抜本的対策が必要ではないか。現状のままなら、民間コンサルティング会社に業務委託した方がましかもしれない。さらに、他の省庁も大きな問題がある。農林水産省は、1961年の農業基本法で農家の規模拡大を目指しながら、有効な政策をとらず、それが現在の日本農業の厳しい状況をもたらした。内閣府は最近、今後10年間4%経済成長が続き、増税なしに2013年度には財政が黒字に転じるという、超楽観的試算を示して、政府・与党を支えている。加えて、石油公団や旧年金福祉事業団が多額の債務を作ったことから分かるように、各省庁は特殊法人や独立行政法人の監督をきちんとできていない。にもかかわらず各省庁がその既得権を守ろうとするので、財務省も特別会計に大きくメスを入れることができない。一方財務省は、既得権のない分野では予算を圧縮しようとするので、教育や科学技術といった将来投資への支出にはあまりいい顔をしない。さらに加えて、国が出資した関西国際空港株式会社は経営に苦しんでいる。このため、飛行機の着陸料がアジア諸国の空港より高く、そのことが飛行機の発着数増加に負の効果をもたらし、結果的に日本経済や、特に関西経済へ与える影響は小さくない。

前置きが長くなったが、要は、各省庁は、長期的な視点を持たず、現状を当たり前ととらえ、失敗を積み重ねても誰もそれを修正できない。一方で、岩本ゼミ卒業生や私の友人

の国家公務員の方々が、しばしば寝る時間を削って働いていることも私は知っている。また上の批判に対し、それは国会議員が悪いのであり、官僚はよくやっているという意見もある。だが、官僚なりにやれることがあったはずだ。また、官僚の中に優秀な人材が数多くいても、組織として結果を出せなければ意味がない。よって、中央官僚の幹部を任命制にして、その任期内に成果を出すようにすべきだろう。ただし、この方式が必ずうまくいく保証はない。米国では、企業の社長だった人が任命されて自分がかつて所属していた業界の利益誘導をする例も見られる。しかし、現在の制度を維持するよりは緊張感が出るだろう。また、民間の発想を官庁にもっと導入する必要がある。以上はかなり一方的な意見なので、反論を期待したい。

4期生 岡崎将也 (NTTコミュニケーションズ)

9期生の皆様

まずは、ご卒業おめでとうございます。こうしてOBのコメントを書く時期になって「もうそんな時期が回ってきたのか！」と1年の早さが比例級数的に短くなっていることにすっかり恐れおののいております。私のほうは去年の春で業務期間が在学期間を追い越し、すっかりゼミ時代が懐かしいとノスタルジーに浸るような年になってきていますが、「4年」という時間を学生の頃と社会人の今とで比較してみると、その“密度”の違いを感じずにはられません。

例えると、社会人としての4年は「新幹線」に乗車した感覚があって、一度乗ってしまうと社会の有無を言わさぬスピードに当事者として巻き込まれ、己もそれに応じた変革を求められます。より実践的なスキルを身に付け、ひたすら最短距離で結果を出す「労働生産性」を求められ、そういえば昔は数式やら係数で労働生産性云々をレジメで書いてたとかぼやきながらも日々の業務に忙殺されてしまいます。それに対しゼミを含めた学生時代の4年間は「田舎のローカル線」にのんびり乗っていたような感じで、車窓から眺める外の景色はゆっくりと通り過ぎていました。ただその景色は非常に鮮明に映り、様々な角度から一つの事象が見えていた気がします。じっくりとものごとを考え、論じ合い、結論にいたるまでのプロセスを楽しむ贅沢が許されていたのです。

これから社会に出られる皆さんはゼミで過ごした時間が社会人となってからは見えないものが見えていた時期だったことにいつか気づくかもしれません。きっとインゼミに、ゼミ合宿にとそれぞれにテーマを掘り下げて闊達な意見交換の場を過ごされてきたでしょう。卒業にあたって一つ胸に抱いていてほしいことは、その時間こそは社会に出てから滅多に得ることのできない貴重な時間であり、それぞれの進路に進んだ後も皆さんの今後のキャリア形成の助けとなり、大切なバックボーンとなるということです。3年間のゼミ活動お疲れ様、岩本ゼミでの経験を糧にそれぞれの道で活躍されることを大いに期待しています。

最後に、今年は青竹会開催の年ですね、きっと知っている方より知らないの方が増え

てきているかと思いますがOBと現役生が新鮮な交流をもてるように楽しみにしています、
10期生の幹事さん頑張ってください。

7期生 藤中康生（財務省）

「岩本ゼミナール機関誌 第八号」に寄せて

9期生の皆様、御卒業おめでとうございます。
今後は各々が選ばれた道を、各々の理想を持って歩まれていかれると思います。

社会に出ると、様々な困難・障害に出くわします。
つまらないルーティーンワーク、嫌な客、理不尽な上司、押しつぶされそうになる重圧。

逃げるのは簡単です。
妥協することは楽です。
見てみないふりをすることもできるでしょう。

でも自分はなぜそこにいるのでしょうか。
何が本当にやりたいことなのでしょう。

目的が分からずに、ただ流されるだけの人があまりにも多い気がします。
今の日本が元気がない一因は、ここにあるのかもしれませんが。

今心に抱かれている「想い」を忘れず、「自律（自らを律する）」した人になってください。（自戒の念も込めて）
皆様の御活躍を期待しております。

8期生 小椋文智（朝日新聞社）

9期生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。

早いものでもう1年近く、皆さんとはご無沙汰しております。私は現在、四国は徳島県でなんとか社会人を続けています。

東京からはGDP年率7%成長というニュースが報じられていますが、なかなか徳島までは明るさの浸透が及ばないようで、県内1、2位の建設会社が計200億円近い負債を抱えて連続倒産すれば、数少ない優良企業は、元社員に究明対価として200億円の支払いを命じられる有様です。

そんな田舎の一地方で1年間、司法担当記者（いわゆる「サツ回り」）として日々の仕事に追われてきました。「事件報道は人間社会の縮図」などと教わりましたが、振り返ってみると、なるほど「ヤミ金融」や「おれおれ詐欺」など、世相を反映するかのような事件の取材も多かったように思います。

岩本ゼミでの経験は、懐かしい思い出になりつつありますが、記憶によると、9期生の皆さんは私たちと違って（?）、すごくしっかりしたメンバーだったので、今後もそれぞれの分野で立派に活躍されることと思います。

最後になりましたが、岩本先生、直大君のご誕生おめでとうございます。研究に、子育てに、ますますのご発展をお祈り申し上げます。

それでは、次に皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。

8期生 熊野 聖史（伊藤忠商事株式会社）

9期生のみなさんへ

ご卒業、おめでとうございます。皆さんは岩本先生が長いお休みに入っていた(!)時期に敢えて岩本ゼミを選んで飛び込んできただけあって、前代未聞の外れ年であった我々8期生にとって、とても心強い後輩でした。皆さんが中心となった昨年度のインゼミも拝見し

ましたが、発言の一語一句に力があって感心したのを覚えています。環境が変わっても存分に実力を発揮して活躍してください。これからも、皆さんが力強く前に進んでいけることを祈念しております。